

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： かたち

活動 位置

「同じ」「違う」を深める

環境をデザインする

●準備した物 プリント、シール

探究活動を実践する

●活動内容

プリントにいろいろな色や小さなシールを貼る
かぶせたり、ほどいたり、包んだりする

●子どもたちの様子

こたりの色を尋ねると、赤、青、黄、緑と元気よく答えた。シールを貼ったこたりの気持ちを、うれしい、喜んでいと子供同士で話していた。4羽が同じ方向を向いていることから、向こうにお母さんがいると想像が広がっていた。白いシールを貼りながら、たくさん降っている雪、ふわふわの雪、ドカンとした雪、冷たい雪など、想像しながらシールを貼る様子が見られた。



●振り返りをふまえた気づき

担任より

丸シール貼り（小鳥と雪だるま）をしたが、どの子も指示通をよく聞いて、同じ色同士でシールを貼ったり、雪だるまのようにシールを縦にして貼ったりすることができていた。話を聞いてから取り組むことができていて、指示に迷うことは見られなかった。

講師より

こたりの色の違いにすぐ気づき、言葉にして伝える姿から、形や色の「同じ・違う」に目を向けながら見ていることが分かった。また、4羽が同じ方向を向いていることから「向こうにお母さんがいる」と想像を広げる姿には、向きや位置にも意味を見出している様子があった。さらに、同じ白いシールでも「ふわふわ」「たくさん」など表現を変えながら貼る姿から、同じものの中にも違いを感じ取り、言葉と結びつけて楽しんでいることが見えてきた。

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： かたち

活動 パズル

組み合わせて別の形が出来上がることを知り、パズルを楽しむ

活動スケジュール

4歳児クラス

日にち	令和8年2月13日
時間	30分
参加人数	10人

環境をデザインする

- 準備した物 タングラムパズル、タスクブック

探究活動を実践する

- 活動内容

形、数の違いを考える

7枚を使って、形をつくってみる



- 子どもたちの様子

中ぐらいの三角のパズルを取るのに、小、中、大と3つの三角を並べ、大きさを比較して考える様子が見られ、同じ三角でも大きさの違いに気が付く姿があった。馬の形を作るのに子どもによってパズルの置き方が異なり、またそれぞれが集中して手を動かしながら工夫していた。難しそうと言って手が進まない子は、隣の友達から励まされ、進めていく様子がみられた。

- 振り返りをふまえた気づき

担任より

タングラムを使って2種類の課題に挑戦した。どの子も意欲的に課題に挑戦していた。課題の線を見て組み合わせではなくそのものの形が分かるものから置いて、組み合わせが必要な箇所は繰り返し置き換えながら挑戦していた。自分で気が付き進めていく中で、出来上がった友だちの作品に目を向ける姿もあったが、後で答え合わせは出来るからまずは自分一人で考える様に促していった。数回繰り返しても出来ないことに、イライラする子の姿も見られたが見守りながら前向きな言葉がけをしていくと、完成させることが出来嬉しそうにしていた。始めは、角は毎回四角で埋めようとしていたり、形の向きも決まった方から変えられない児もいた。何度か繰り返す中で、完成させることが出来るとその後も何度も繰り返していく姿があった。

講師より

三角のパズルを取る際に小・中・大を並べて比べる姿から、子どもたちは形だけでなく大きさの違いにも目を向けていることが分かった。馬の形づくりでは、置き方を変えながら試し、手を動かして確かめる姿があった。形の捉え方や進め方にはそれぞれの違いがあり、組み合わせることで新たな形が生まれることを確かめている様子が見えてきた。

令和7年度

パピーナ南荻窪保育園

すくわくプログラム

テーマ： ことば

活動 言葉のルール、しりとり

しりとり遊びを体験する

活動スケジュール

5歳児クラス

日にち	令和8年2月13日
時間	45分
参加人数	10人

環境をデザインする

●準備した物 カード

探究活動を実践する

●活動内容

「ん」のつく言葉をさがす
しりとり遊びを行う

●子どもたちの様子



クマは口が何回動くか問うと、考えてから積極的に声を上げていく姿があった。「ん」で終わる言葉を考え、ニンジン、キリン、よん（4）、王冠など様々な言葉を、一人ずつ発表していた。しりとりカードは見本と同じにするのではなく、自分で考えたいと、一枚ずつ順番を考えて並べていく様子が見られた。

●振り返りをふまえた気づき

担任より

先生の姿が見えると、姿勢を話を聞こうとしていた。今日は、しりとりについて学ぶ。最初はカードを使ってしりとりをする。カードに絵が描いてあり、カードの絵を使いながらしりとりをした。最初のカードはどこから始めてもしりとりが完結するカードだったため、子どもたちもスムーズにしりとりを完成させていた。2回目のカードは、終わり始めが決まっていた、できない児も多かった。保育者が一緒になって考えると、すぐに理解し、しりとりを完成させていた。その後は、ワークをする。ワーク内のしりとり遊びのページをすすめた。ワークを見ただけでは何をするのか分かっていない様子だったが、話をよく聞き、何をするのかを明確にしていた。することがわかってからは、すぐにワークを進めていた。みんなすぐに理解し、楽しみながらワークをしていた。

講師より

「子どもたちはことばを意味だけでなく、音のまとまりとして捉えながら考えていることが分かった。「クマ」の口の動きを声に出して確かめたり、「ん」で終わる言葉を挙げたりする姿から、音に目を向けている様子があった。また、見本通りに並べるのではなく、自分で順番を考えてカードをつなげていたことから、ことばのつながりを自分なりに確かめようとしていることが分かった。